

資料編

第1回検討会議ワークショップまとめ

【会議資料】

1. 第1回検討会議の概要

エリア／ スポット	魅力	課題と提案
エリア全体	・ （地域としての）ネタはある	・ （何が特徴なのかははっきりせず）花がなかった。今日はどうであろうか？ ・ ストーリー（365日の物語）をどうつくるか？
	・ いろいろな施設が混在していて面白そうである	・ 中心となる施設がよくわからない ・ 施設によってターゲットがバラバラ ・ エリアとしてのイメージがわからない。 ・ 何がどこにあるのか解りづらい
	・ 外国人向けの小さな宿が多い	・ 安全性・周りのソフト（言語など）は整備されているのか？
	・ 観光地化されていなくて落ち着いている	・ 横軸（七条、五条通り）とタテ軸（烏丸・堀川・大宮）の繋がりが弱い⇒回遊仕組みを作る必要があるのではないか。 ・ 飲食店が少なそうである
	・ 住民との触れ合いができるかも	・ 交通アクセスが不便そう⇒地元住民の想いをくみとってもらいたい ・ 活性化のイメージ将来像が必要 ・ 歩く観光の振興（細い道を入ったところも面白いというところをPR）が考えられる ・ 地区内の回遊性が大切。3時間＝（180分）×70m/分＝約10km程度を歩くことになる。⇒3時間はつらい。もっと狭いエリアの観光拠点という発想も大切。 ・ レンタサイクル等の自転車があるといい。
駅 ①京都駅		・ 西側に改札があれば良い
②丹波口駅		・ さみしい ・ 少し駅の位置を考えたらどうか ・ この地区の顔として、もう少し美しく整備できないか。

エリア／ スポット	魅力	課題と提案
③その他		・ 西大路駅はバリアフリー設備がなく使いづらい ・ 子ども連れには京都駅から梅小路公園まで歩きづらい ・ 駅前が狭いが、何か規制があるのだろうか？ ・ 「丹波口駅から京都駅」は行きやすいが、「京都駅から丹波口駅」は行きづらい
梅小路公園	・ 都会の真ん中にありながら心休まる貴重な空間	・ 余りにも自販機が多すぎてみっともない ・ 環境の負荷のかかるジハンキは、公園から撤去すべき。 ・ 商店街の空き店舗に自販機を集めてはどうか。
	・ 2011年京都音楽博覧会が開催され斉藤和義等が出演	・ 野外ステージの活用が必要
	・ 鉄道博物館 H27 オープン	・ JR 社宅跡地にどのような施設を造ればいいのかの検討の必要性 ・ 梅小路駅が欲しい
	・ 食事出来るところがない	・ 付近に食事できる場所があればよい。
七条通・商店街	・ 「七条通商店街＝カレー食材」といったPR 出来るのではないか ・ 庶民的な商店街の楽しみ方をPRしてはどうか ・ 『三丁目の夕日』人情商店街のような活性化の方向性も考えられる ・ 商店街の対面販売をこども教育へ活用してはどうか	・ 商店街自助努力が必要 ・ 新しい機能が必要 ・ 閉まっている店が多い ・ 商店自体が少なくなった。土・日休みの店が多い ・ 水族館へ行った人は商店街へは行っていない ・ 七条通の駐車スペースの活用を検討 ・ 歩きにくく、歩いても楽しくない ・ 歩道の美装化 ・ 単発のイベントではなく、継続性のあるものを！
	・ 梅小路へかけて食事をするところがない	・ 食べる所が選べたらいい

エリア／ スポット	魅力	課題と提案
市場	水族館へ魚のエサを供給している（連携）	- 東側に歩道設置して欲しい - 荷物車多く歩きづらい - 市場が東西を分断している - 市場は一般人は入り難い - 駐車場の整備が必要ではないか - 機能の再編成の検討（五条通側か七条通側へ市場機能をまとめる） - 面積を現状の 1/4~1/3 程度に集約出来れば、教育施設等、「学ぶ場」を設け、梅小路公園との連携を図り、留学生を呼び、学生の若い力を地区胃のエネルギーとして育ててはどうだろうか。（例：京都大学に芸術学部があってもよい。また、龍谷大学に医学部があってもよいと思う。いわゆる「ビハーク活動※」の展開。 （※ビハーク活動：サンスクリット語で「休息の場所」・「僧侶」・「寺院」という意味。漢訳では「安住」、「身も心も案じる」という意味で使われ、病床に伏す者の家族や友人の悩みを、宗教者としてやわらげ、人間の尊厳を保ちつつ生きられるように精神的介護を行う活動。）
	中央市場が世代をつなぐ	- 美味しいところと市場のイメージと繋がってない - 築地のようなイメージ作り - すし棟（8/5 オープン）も含めて広く開放を！
神社・仏閣	清盛ゆかりの若一神社も PR ポイント	- 渉成園（庭園）知られてない 「地藏めぐり」をやってはどうか
		- 東本願寺・西本願寺参観料セット割引が欲しい - 西本願寺拝観料なく出入りできるようになればよい - 本願寺への参拝者がもっと地域へ出て行って欲しい - 両本願寺は余り開かれすぎない方がよい！ただ地域のイベントとの連携に協力して！

エリア／ スポット	魅力	課題と提案
	・ 寺社仏閣めぐりだけでない新しい京都観光ができる ・ 産学宗教の連携に期待がある	
その他	・ 五条堀川付近 風俗博物館	・ 観光するようなところが少なく知られていない
	・ 島原・角屋	・ 角屋は年間 1200 人の来館があるが、まだ充分ではない ・ 島原地区に関して、食（一流の食・B 級グルメ）の観点から PR 出来るのではないかな
	・ 龍谷大学学舎が素晴らしい	・ 地域にもっと PR すればよい ・ （大宮＋深草）龍谷大学に医学部を作ってはいかがなか ・ 仏教系の医学部の設立
	・ 京都リサーチパーク	・ もっと地域に開いて欲しい ・ 市場とも全く連携がない

【ワークショップ後の意見交換】

- ・ 「活性化と言って何をどうするのか」という声もあった。それなりに機能している各施設の相乗効果でなんとか活性化させるのではないかという意見もあるが、実際、これをどうしていくかというのは、これからの検討会議の議論の本質ではないだろうか。
- ・ 梅小路公園には防災訓練やお祭りなどの関係があり、リサーチパークとも一緒に何かさせて頂きたいと、関係者で色々な事を考えている。お互いが時々場所を貸したり、借りたりというような関係で今日まで来ている。何かいい知恵があれば一緒に考えて行きたい。
- ・ 学校を作りたい。例えば市場を全部更地にし、流通部門を縮小し、残りの部分を使って留学生が一万くらいが入れるような京大の芸術学部にしてはどうか。もうひとつの提案としては、龍谷大学が医学部を作ってはどうか。
- ・ 梅小路界限も、鉄道博物館が出来て、蒸気機関車館があり、すし棟が出来ると、中心が西の方に移ってくることから、この界限の人の意識が相当変わってくると思う。今まではいろんなネタがあったが、花が咲いていなかった。これからそのひとつひとつが咲いてくると思って頑張りたい。

2. 第2回検討会議（第1回まちあるき）の概要

【会議資料】

<まちあるきの進め方（目的・視点等）>

まちあるきの進め方について

目的

- 全員で、エリアの魅力と課題を共有する。
⇒ 全員で、同じコースを歩きます。
- 梅小路公園を中心にエリア全体を丁寧歩いて、気づきを深める。
⇒ 全3回のまちあるきを通してエリア内を丁寧に見て回るとともに、エリア全体の規模を体験します。
- エリアの魅力だけでなく、残念な点も見つける。
⇒ プラスを伸ばし、マイナスをプラスに変えることができれば、エリアの魅力アップにつながります。

「何もない」
「歩きにくい」ことも
見どころです

視点

- 各スポットの魅力と課題
- スポット間の共通点と相違点
⇒ 利用者層・繁忙期等の共通点・相違点がないか？
⇒ 相乗効果・ミスマッチの解消が図れないか？
- 互いの行き来のしやすさ・歩きやすさと交通アクセス
⇒ 互いに行き来がしやすいか？ それをしやすくするためには？
⇒ 外から来た人は、どこから来て、どこへ向かうか？

今後のまちあるきを
通してチェックします

皆様の御協力

- 各スポットに関係される委員の方々にレクチャーを依頼
⇒ エリア内の主要スポットを一通り網羅するとともに、委員の皆様にもまちあるきの企画に御協力をお願いしております。
- 龍谷大学様の御協力を得て、大学生も参加
⇒ 若い皆様のまちの見方も参考とさせていただきます。
- 京都市職員（下京区西部エリアの活性化ワーキング・グループ会議）も参加

第1回まちあるきエリア図と訪問施設名



①中央卸売市場

全国で最初にできた中央卸売市場。今年 85 周年を迎えます。毎月「京朱雀市場 食彩市」を開催。11 月に行われる年に一度の「鍋祭り」では 7～8 万人もの来場者があります。8 月にオープンした「すし棟」にもぎわっています。

②JR 丹波口駅

平成 22 年 3 月に京都～園部間全線複線化となり、平成 23 年度の一日平均の乗車人員は 5,188 人となっています。そのうち、3,194 人が通勤定期です。平成 24 年 4 月にはレンタサイクル（駅リンくん）も開業しました。

③大阪ガス・KRP

全国初の民間運営によるリサーチパークとして平成元年にオープン。さまざまな分野の研究機関や企業、商業施設などが入居。現在では 250 社の企業集積を実現しています。京都らしい空間や、オープンスペースが設けられた 9 号館にある「京都市産業技術研究所（京都ものづくり未来館）」は、たくさんの方々に利用され親しまれる施設を目指しています。

④商店街

七西甲子会、西七繁栄会、七条中央サービス会、七条千本繁栄会、七条センター商店街、嶋原商店街の 6 商店街で形成された「ほいっと七条」や、水族館建設のタイミングで梅小路活性化委員会、ぐるり梅小路など新たなネットワークも作られ、イベントや商品開発などで活性化を図ろうと活動されています。

「まちあるき（第1回）」のワークショップまとめ

＜中央卸売市場＞

魅力	課題（改善ポイント）
・ 京都の食文化を支えている ・ 映画のセットのような昭和の街路風景 ・ イベントが多い ・ 何か発見できそうなイメージ ・ プロのエリア ・ 日本で最初にできた ・ 広大な敷地 ・ 市街地にある中央市場、歴史のある市場 ・ スケールが大きくてセリが活況している ・ 旬の食材を使った催しの開催 ・ 月一回市場を開放している ・ ごみのポイ捨てが少なく印象と違いきれいだった ・ 卸売市場の広い一帯が1つのコミュニティとなっていたこと ・ モーターの運転がおもしろそう ・ 食祭（菜）市が素敵 ・ 小売りをしてもらえる ・ スケールが大きく非日常空間 ・ 販売物の種類が多い ・ 駅チカ	・ 安全面の確保（歩道の整備、発砲スチロール） ・ 雑然としていて、どこで何が行われているかわかりづらい →パネルの設置 ・ 毎年の改修費が多い ・ セリを観光資源に ・ 一般人の入場制限日が多い→観光者向けのツアー ・ 匂いがきつい ・ 殺風景 ・ 卸売場の近くにある喫煙スペースの場所の検討 ・ 市場周辺と協力してファミリー層・外国人向けのルート設備 ・ 気軽に買えるような雰囲気づくり ・ もう少し催しを行ってもよい ・ 観光客が鮮魚・青果を味わえる場所を充実させる ・ KRP などに来場する人に向けた情報発信

<丹波口駅>

魅力	課題（改善ポイント）
・ 中高生向けの設備（がある？） ・ レンタサイクル ・ 駅内がきれい ・ 市場と直結している	・ 旧千本通りへの歩道がない ・ 建物に魅力がなく、わくわくしない ・ 市バス利用者には不便 ・ 昼間の本数が少ない ・ サイクリングコースを作成し、レンタサイクル利用者の増加 ・ 構内が狭い ・ 歴史を感じられるものが少ない ・ 印象が薄い ・ 水族館と連携が必要では ・ 付近案内図がない ・ 利用者数の割に改札が少ない ・ 駅の南西側に出入り口があれば、七条側とつながりやすいのでは ・ 周辺に店が少ない ・ 駅が高架下にあることもあって暗い ・ 売店やコンビニなどを開店させたら明るくなって物騒でなくなるのでは ・ 電車の本数をふやせないか ・ 駅名を卸売市場があるとわかるような名前に変更すればよい

<大阪ガス・京都リサーチパーク>

魅力	課題（改善ポイント）
・ 近代性がある ・ 研修事業が充実 ・ 道幅の広さ ・ 街並みの美しさ ・ スタバ・TUTAYA・レストランなど魅力的な施設の充実 ・ 伝統産業が近代建築にうまくいかされている（漆塗りのエレベーター） ・ 建物が綺麗。 ・ 伝統工芸を残すという取り組みをしながら、ベンチャー企業など若い企業も多く入っていて、多彩であった	・ 産技研の入居250社をうまく利用できそう ・ 見える化すべき（施設見学や体験コーナーなど） ・ 知名度が低い ・ 「無鉛えのぐ」を染髪剤やマニキュアに利用 ・ 入りにくい（雰囲気などの面） ・ 広報・宣伝不足 ・ 伝統産業など、なにか買いたいと思っても売っていない。 ・ 一般人とのなじみのなさ。 ・ 京都の伝統産業に子供が触れられる機会が少ない。 ・ クッキングスクールやフィットネスクラブはあまり市民に知られていない ・ 地元の人が入りにくい ・ 名前が長ったらしくてわかりにくい

<商店街>

魅力	課題（改善ポイント）
・ 熱意のある人材がいる ・ 対面販売の良さ ・ 活気がある ・ 雰囲気がいい ・ なつかしい街並み ・ 地域・小学校と関わりがあること	・ 喫茶店などの、人が集まる場所がほしい ・ 閉店時刻が早い ・ 水族館への期待が大きすぎる ・ 商店街内の意思統合ができていないと改革などできない ・ 若者むけの商品が少ない ・ レトロさを売りにすべき ・ ゴミが多い ・ 市場との連携がほしい ・ 通行者の保護がされていない ・ やる気のある人についていけない人がいる ・ 南北格差 ・ 街路樹（プラタナス）が汚い、芸がないので樹種の変更を ・ 少しさびれた箇所も目立つ ・ 景観的にもっとハデな感じにできないか？明るいイメージにすべき ・ 何の変哲もなくおもしろくない ・ 跡継ぎがいない

＜全体・その他のエリア＞

魅力	課題（改善ポイント）
・ 魅力のあるコンテンツがたくさんある ・ 七本松通りが歩きやすい	・ 町全体の一体感がない（ゆるキャラ） ・ 食事をできるところが分散している ・ 緑が少ない ・ エリアの核を何にするのが難しい ・ 市バスなどに乗っている人が寄ってみたいくなる工夫 ・ KRP～七条の間（交差点など）の案内看板が乏しい ・ バリアフリーの強化 ・ ファミリー層や観光客が利用できる施設が必要 ・ 五条千本バス乗り場に自転車が止められていた ・ 若者が行こうと思う店が少ない ・ 人が集う場が少ない ・ 混然としているのでこれをつなぐ工夫が必要 ・ 「京都」というブランドをもっと売るべき 例えば、コンビニの外観を木造にして和風にするとか

【ワークショップ後の意見交換】

- ・ 商店街の賑わいを新たな形で取り戻したい。これまで土日は店を休んでいたが、これからは考え直した方がいいかもしれない。
- ・ やはり地域の活性化のためには、ヒト・モノが動く必要がある。何についても動くことが大切であり、そのためには若い人にできるだけ入ってもらう必要がある。このままでは大きな資本が入ってきて、ますます地域がさびれてしまうかもしれないので、できれば地域の力で活性化していきたいと願っている。
- ・ 時代が変わる中で学区、地域も変わってきた。本日も多くの方に集まって頂いているが、これだけの人が本気で動けば変わっていくのではないかなと思う。
- ・ 卸売市場を実際に歩いた時間帯は暗く、物も散乱していたので、昼間に何かできればと思った。また、商店街はシャッターが下りている店が目立った。“日本初の卸売市場”というポテンシャルを生かせていないことがもったいなく、市場と商店街が連携できればよいと感じた。
- ・ 緑や花などにより、七本松通の魅力をもっとアップできればと感じた。また、議論は必要だが、下京区西部エリア内を、例えば「K R P 周辺」といったように、“特徴を持ったゾーン分け”により特色を出していく必要があるのではないかなと思った。
- ・ K R P の漆塗りのエレベーターのようなものを積極的に発信し、外から見るだけでは分からない伝統と先端技術の融合や素晴らしい施設と研究者の集積についてもっと伝えられたら、と思った。
- ・ “もったいないことがいっぱいある下京区”ということが大きな発見だったと思う。

3. 第3回検討会議（第2回まちあるき）の概要

【会議資料】

第2回まちあるきエリア図と訪問施設名



①梅小路蒸気機関車館

日本国有鉄道（現在の JR 各社）が鉄道 100 周年記念事業の一環として開設し、今年開館 40 周年を迎え、記念イベントも開催されます。19 両の蒸気機関車を保存し、そのうち 7 両が動態保存されています。

②梅小路公園

平成 7 年開園。平成 22 年に野外ステージが完成し、平成 23 年にはカフェレストランを新装オープン。水族館に続き、「(仮称) 京都鉄道博物館」も平成 27 年度開業予定で、ますます注目のエリアとなっています。

③京都水族館

今年 3 月オープン。7 月には、入館者数が 100 万人を超えました。日本初の人工海水を利用した水族館で、内陸型としては最大級の規模です。地元鴨川に生息する国の天然記念物オオサンショウウオの展示など地域密着を目指しています。

④嶋原商店街

島原の大門の前から千本通、西本願寺の西、大宮通までの花屋町通にある商店街。島原の門前町として栄えていました。

⑤角屋もてなしの文化美術館

平成 10 年に開館。江戸期の饗宴・もてなしの文化の場である揚屋建築の唯一の遺構で、国の重要文化財。太夫や芸妓を呼び歌舞音曲を楽しむなど宴会が行われた現代の料亭のような施設です。また豪商や文化人も多く集い、俳壇も形成されるなど文化サロンとしての役割も持っていました。

「まちあるき（第2回）」のワークショップまとめ

＜梅小路蒸気機関車館＞

魅力	課題（改善ポイント）
・ 入口を入ったらワクワク感が出てきた。 ・ 親子連れが多い。親子3世代で楽しめる。 ・ 旧二条駅を移築した趣のある駅舎。 ・ 歴史ある展示物。D51 一号機など、歴史的価値大。 ・ 懐かしさ、ロマンがある。 ・ 実物の機関車の魅力と迫力。本物の迫力。 ・ 鉄道ファン／マニアや、子どもたちにはたまらない。 ・ 鉄道ファンならずとも魅力的なスペースで、リピートが期待できる。 ・ 目新しい機関車が見られた。 ・ 説明があると、とてもわかりやすく、いつもとは違う楽しみ方があった。 ・ 大迫力の動く機内やターンテーブル等、見どころがたくさん。 ・ 蒸気機関車が常時運転されていること。 ・ オンリーワンの施設。 ・ 公園内の立地。 ・ SL の動体保存は素晴らしい。	・ 入口がわかりにくい。 ・ 京都駅からのアクセスが悪い。 ・ 七条通りを歩いていて「蒸気機関車館がある」ことが分らない。 ・ 公園の西端にあり、行きづらい。東側入り口からの誘導が不足している。（機関車のモニュメントなど） ・ 梅小路公園からのアプローチ部分の工夫が欲しい。 ・ もっと開放的でゆっくり、くつろいで見学できるスペースが欲しい。 ・ 売店を明るくきれいに。 ・ 建築を活かしきれていない。 ・ 「蒸気機関車館」と「水族館」・・・「公園」をどのように連携？ ・ マニアには面白いが、一般向けの説明が欲しい。 ・ 一人では来づらい。 ・ 鉄道グッズの充実があると良い。 ・ 展示説明が少し大人対象であり、説明されないとわからない展示がある⇒キャプションを充実して欲しい。 ・ 案内ボランティアを育成して、しっかりした説明をしてほしい ・ もっと知らせるべきモノ、ストーリーがあるはず。

<梅小路公園>

魅力	課題（改善ポイント）
・ いのちの森や緑が多い。街中における広大な緑。 ・ 人も増えた。 ・ 五重塔、新幹線が見られた。 ・ とにかく広さが魅力。走り回ることが子どもにとっては嬉しいこと。 ・ 人が多く集まることができる。（子供からお年寄り、散歩（犬）まで楽しめる。） ・ 喫煙ブースがある。 ・ イベントが増えてにぎわいがある。 ・ 広くて開放感があり、ほっこりできる。 ・ ゆったりとあらゆる世代が憩えるスペース。 ・ 公園や、花も手入れがよく出来ている。 ・ 広場は休日には家族づれでも楽しめて魅力。 ・ 園内の自販機が周囲と調和している。	・ 季節ごとに楽しめるよう草花なども増やせば面白いと思う。 ・ 公園でのイベントをもっと PR した方がよい。 ・ 広場、芝生。森にしてみては？ ・ 芝生広場以外が使いきれていない。 ・ 自転車が危ない。 ・ アクセスが悪い。 ・ 道が歩きにくい。ブロック部分、とくにベビーカーは通行しにくい。 ・ 公園内の自販機が、景観面でも、エコロジーの観点から残念。 ・ 自販機の規制が必要。 ・ 売店・食事処、休憩所が公園内に欲しい（座って緑をながめる場所が欲しい）。 ・ いのちの森はうっそうとしていて入りにくい。 ・ 水族館の通り道となっているようにも感じられる。 ・ 公園までの交通の便、駐車場が不足しているように感じられる。 ・ PR 不足。京都市民も知らない人が多い。 ・ 京都駅での案内不足。

＜京都水族館＞

魅力	課題（改善ポイント）
・ 京都市の新たな観光資源。楽しく、集客力がある。 ・ バリアフリー。 ・ 休憩所がところどころにある。 ・ 入口（エントランス）がとてもキレイ。 ・ 建物の建て方もよく工夫されている。 ・ コンパクトで楽しそう。適当な規模でかつ新たな発見がある。スポットごとに楽しめる。 ・ 大きさ、歩く時間の長さなど、小さい子供を連れて歩くにはすべてちょうどよい感じ。 ・ 開館当時より魚の種類が増えたように思う。 ・ 今まで知らなかった魚が数多く見られた。 ・ 魚など見やすい工夫がされてある。 ・ 淡水魚、イルカ、サンショウウオ、クラゲ希少生物など特色のある展示内容。 ・ 食材と関連した展示がユニーク。 ・ 水槽の目線が低く、子供も十分に楽しめる雰囲気。見せ方が工夫されている。 ・ 展示1つ1つが見やすいので、魚や生き物がどんな形をしているのかがわかりやすい。 ・ 水族館から見る公園の緑が素晴らしい。 ・ イルカショー。	・ 音声案内などが無い。 ・ 魚の写真だけで解説や英語の説明がない（生息場所など）。 ・ 説明スタッフをもっと利用すればよいのでは？ ・ 少し手狭な感じがする。来館者が多いときはちょっとつらい。 ・ いつきても混んでおり、ゆっくり楽しめない。 ・ 里山ゾーンは、もう少し規模が大きいほうがよい。 ・ メッセージ性が薄い。 ・ 目玉がない。 ・ 食事スペースに乏しい。 ・ エリアの顔としての施設をどのように利活用するか？単独ではなく連携へ。 ・ 『京都』の強い魅力、地元「下京」を生かしたソフトがないのでは？ ・ 「水族館」、「公園」、「機関車館」をつなぐテーマが無い。 ・ エントランスが狭い。 ・ 人気が続くように工夫をしてほしい。何度も見ているから変化がほしい。 ・ あの集客力を「街」でいかせないか？

<嶋原商店街>

魅力	課題（改善ポイント）
・ ゴミ、タバコの吸い殻がない。 ・ 地元の住民と密着している ・ 昔ながらの、昭和のレトロ感漂う商店が魅力（食堂、おもちゃ屋、和菓子屋など）。 ・ 歴史がある。歴史を感じる ・ ぱっと見るとわからないが、意外と多くの店があり、おもしろい店もたくさんある。 ・ 地元の高齢者にとっては大切な場所になっている。 ・ なじみやすく、あたたかい雰囲気を感じた。 ・ なつかしい、昔を思い出す。落ち着く。 ・ 街灯がある。活かせないか。 ・ 門前町として特徴のある店舗があることに気付いた。 ・ 旅館や外国人向けの宿泊施設があり、地域の人以外の顧客がありそうだ。	・ 交通の便が悪い。 ・ 車通りで危険。歩くための環境づくり。 ・ 歩道の整備をする。 ・ 目玉になる様な何かを！ ・ 人を引き付ける店、飲食が少ないので人が通るだけになっている。 ・ 閉まっている店、住んでいない家があることにより、楽しさよりも寂しい印象。暗く、活気がない。 ・ 商店街の風景が中途半端な感じ。古き良き時代を大切にする古い玩具屋とか菓子舗を活かして、もっと昭和レトロに出来れば面白い。 ・ 店舗数が少ない。活性化してほしい。 ・ 呼び込むターゲットが明確だろうか？ 誰に来てもらいたいのか、はっきりしていない。 ・ スーパーにも負けない魅力の掘り起こしが必要。 ・ 大通りからお客（観光客・外部の人）を巻き込み、呼び込むアイデア、観光客を引きこむ工夫が必要。 ・ マンションは違和感がある。統一された幕やのれんなどが並ぶと一体感がでるのでは。 ・ 古い建物の外観を復活し、街並みを充実させる。 ・ 電線が見苦しい ・ 新たな店舗がほとんどない。チャレンジショップを導入しては？ ・ 商店街どうし、各店舗の協力が必要。 ・ 水族館の集客を生かそうという工夫があまり感じられず、少し残念。 ・ 梅小路や角屋さんとのつながりが薄い。

<角屋・島原地区>

魅力	課題（改善ポイント）
・ 角屋、歴史、貴重な文化財の魅力大でとても良い。 ・ 大門や石畳の雰囲気が良い。 ・ 門をくぐれば昔がある街。 ・ 門が見どころ。 ・ 入ってビックリ。ロマンあふれる空間であった。 ・ 京都の花街について学べる貴重な場所。 ・ “もてなし”は京都の Keyword。そのシンボルとしての角屋さんという位置づけ。 ・ 味わいのある建築物が多く、感嘆した。 ・ ここだけ見てもすばらしい施設であり、歴史、風俗を実際に見学し、身につけられる。 ・ ストーリー、エピソードが充実。	・ せっかくの角屋の良さに、町を歩いていても気付けない。 ・ 周りの住宅街との調和が難しい。 ・ 嶋原商店街と島原地区のつながりが見えない。 ・ 交通の便が悪い。 ・ 揚屋で遊べるならよい（体験型）。 ・ アクセス方法がわからない（何番のバスに乗ったらいいのか？） ・ 価値を伝えるしくみ。 ・ 場所が分かりにくい。 ・ 暗い。 ・ 見ごたえ充分にしては、余り知られていない。 ・ 地域内にも知られていない。 ・ PR 不足。 ・ 古いまちなみを大切にすれば、人が来るようになるのでは？ ・ 若者を引き付ける魅力を何か出せないか？ ・ 今風の民家が多く、街並みが雑然としている。 ・ 新撰組と建物の関連について、もう少し分かりやすい説明があったらよいのでは？ ・ 年中開館ではない、年間を通してオープンできないか。 ・ 門、角屋さん以外に見どころが見つからなかった。 ・ 若い世代にアピールできるか？ ・ 角屋の周りがあまりに“現代的”で、残念だ。 ・ より広く、多くの方に存在を知らせる工夫が必要。

＜全体・その他のエリア＞

魅力	課題（改善ポイント）
・ あちこちにチラシが置かれていて、地域内のお互いの施設を PR しあっている。 ・ キーワードは“もてなし”。 ・ 現在（水族館）、近代（SL 館）、過去（島原、角屋）いろいろな時代を体感できる。 ・ 蒸気機関車館、水族館、角屋など、時代を通したミュージアム・ツアーを作ってはどうか。 ・ 一連の施設を周遊するコースマップやセット割引があれば、地域の活性化につながるのでは。 ・ 今日のエリアは歩いて 20 分程度であるから、ルートとしてつながりたい。	・ 回遊を促す仕掛けが無い。 ・ 巡回できる遊歩道が欲しい ・ 西本願寺→角屋さんへの道中を楽しくできないか。 ・ トイレの数が不足している。 ・ 千本通りに安全な歩道 ・ 連携のイメージ？ ・ ポイント、ポイントは楽しいが、道中が楽しくない。 ・ 市場の食育ポイント？ ・ 休憩できて食べられるポイントが必要。 ・ 新しいイメージの繋がりをどうつくるか。 ・ エリアとして、どう捉えるかという方向性の検討が必要。 ・ エリア全体として、余り知られていない。認知されていない。 ・ まず地元の人を知ることが大切 ・ 個々の施設は魅力があるが、それらを繋ぐ動線が整備されていない。 ・ 梅小路公園と地域の一体性が見られないと感じる。 ・ 新しい人の流れが、地域全体にとっての顧客になっていない。

【ワークショップ後の意見交換】

- ・ まちあるきに参加したが、それほど歩きやすいまちではないと感じた。スタンプラリーなどを通して、多くの人に歩いてもらえるような仕掛けが必要ではないか。
- ・ 各施設とも魅力はあるが、それぞれ興味を持つところが違う。梅小路公園に来られた方の中で、角屋もてなしの文化美術館に興味のある方をどのようにして案内すればよいだろうか。マップやコースを作るなどして、興味のあることをしっかりと案内できればよいのではないかと思った。
- ・ 各施設の方々が相互に見学に行かれるだけでもまちの楽しみ方は増えるのでは、と感じた。

4. 第4回検討会議（第3回まちあるき）の概要

【会議資料】

第3回まちあるきエリア図と訪問施設名



①龍谷大学大宮学舎

龍谷大学発祥の地。本館をはじめ、国の重要文化財となる建物が現存し、映画やドラマの撮影にも協力しています。地元団体等とコラボレーションして地域活性化に資する活動を京都市が認定する「学まちコラボ事業」に、平成24年度は3団体が認定されました。

②西本願寺（本願寺）

浄土真宗本願寺派の本山。桃山文化を代表する飛雲閣・書院・北能舞台・唐門（いずれも国宝）などがある境内は国の史跡に指定され、世界遺産にも登録されています。昨年、「親鸞聖人750回大遠忌法要」が行われ、記念行事として、門前町で宗門の法要行事に縁のない人も参画できる「ご縁まちフェスタ」が開催されました。

③龍谷ミュージアム

仏教の誕生から現代までをわかりやすく紹介する仏教総合博物館です。仏教を中心とする文化財が広く公開される平常展や魅力あふれるテーマで開催する特別展、企画展を通して仏教文化への理解を深めることができます。また、街に開かれたミュージアムとして1階の一部がオープンスペースとして開放され、ミュージアムショップやカフェ、中庭などが設置されています。

④東本願寺（真宗本願）

真宗大谷派の本山。昨年「宗祖親鸞聖人七百五十回御遠忌法要」が勤まり、その特別記念事業として、阿弥陀堂、御影堂門の御修復が行われています。約350人収容可能な視聴覚ホールでは一般参拝者対象に法話やビデオ上映、研修等がされています。烏丸通り東側には飛地境内地である渉成園があり、国の名勝に指定されています。

⑤京都駅ビル

今年9月に開業15周年を迎えた京都駅ビルは、国際文化観光都市・京都の玄関口として、百貨店、ホテル、劇場、イベントスペースなどの様々な機能を備え、国内や海外から多くの人々が訪れています。また、今年の1月から15周年記念事業として、各種イベントが開催されているほか、環境問題への取り組みに関する情報発信を目的とした実験展示も行われています。

「まちあるき（第3回）」のワークショップまとめ

＜龍谷大学 大宮学舎＞

魅力	課題（改善ポイント）
・ 建物、意匠が美しい。 ・ 風格のある建物。 ・ 西洋様式の建物がとても印象に残るものであった。 ・ 明治時代の西洋風の学舎が珍しかった。 ・ 歴史ある洋風建築、仏教系大学とは思えない静かな雰囲気。 ・ 静かで落ち着いた空間がよい。西洋文化のおしゃれな建物のつくりがとても魅力的だった。 ・ たたずむだけで落ち着く雰囲気。 ・ 独特な雰囲気と古風な感じがよかった。 ・ 構内の雰囲気はタイムスリップした空間で素晴らしい。 ・ 街中で閑静な空間。 ・ 閑静な環境の中での歴史ある建物。 ・ 植栽も美しく、落葉もはきととのえられている。 ・ 重要文化財が4ヶ所ある。 ・ 重文の校舎が素晴らしい。 ・ 近代建築、近代的価値大。観光資源としての価値も大。 ・ 下京区の歴史と共に歩む学舎として見応えがあった。 ・ 穴場（知らなかった）。 ・ 優雅、立派、すごい。ぜひ見学したい。 ・ 魅力的な建物群＋グッズショップが分かりやすい場所にあった。 ・ 新しい校舎が素晴らしい。	・ 場所がわかりにくい。 ・ 入口の場所がわかりにくい。 ・ この場所に龍谷大学があること自体を知らない人が多いのでは？ ・ 龍谷大学の発祥の地についてはPRする。 ・ 大宮学舎の魅力を発信すべきである。 ・ 多くの人に見てもらえないのが惜しい。 ・ より一般の人にPRして良さを知らせてほしい。 ・ アナウンス不足、もっと観光スポットに。 ・ 自由に散策していいのかどうか迷ってしまう。 ・ 一般に入れるというイメージがなく、これまで入ったことがなかった。 ・ 一般人が立ち入っていいのかわからない。入りにくい。 ・ 建物がきれいな分、砂利など他の景観が少し気になった。 ・ 本来の目的は大学である。 ・ 卒煙ブースの有無。車の乗り入れ等、景観への配慮が必要か。 ・ 本講舎のバリアフリー対応が不十分に思う。 ・ 観光資源として生かせばよい。 ・ 映画の撮影で使えるようなスポットとして残してもらいたい。 ・ 重要文化財と何かコラボしてイベントが出来たら素晴らしい。

＜西本願寺＞

魅力	課題（改善ポイント）
・ 歴史的な価値。 ・ 歴史を通して変わらない日本の教えが伝え続けられる。 ・ 歴史、エピソードが満載。拝観料を取っても良い。 ・ 伝統を力強く感じる。建物の古さに圧倒される。 ・ 巨大な木造建築がすばらしい。 ・ 本山として誇れる建築物、信者が集まる魅力がある。 ・ 年間 140 万人以上が参拝。 ・ 美しい建物群を外国人観光客も興味深げに見ていた。 ・ 歴史的建物の迫力。 ・ 国宝唐門が素晴らしい。 ・ 御影堂がすごかった。 ・ 国宝、重文など価値ある資産がたくさんある。 ・ 建物だけでなく門なども見応えがあった。 ・ 建物 1 つ 1 つが日本を代表、象徴する素晴らしさをもっている。 ・ 拝観料が不要。 ・ 誰でも自由に入ることができる。 ・ 全体的にオープンになっていて入りやすい！ ・ 参拝（拝観）料不要→開かれた空間（ただし、宗教の場所） ・ おごそか、落ち着く、いやし。 ・ 外陣が広く取られており、ゆったりと見ることができる。 ・ 一般の人がたくさん参拝できてよい。 ・ 広い、圧巻。 ・ 英語での案内。	・ 浄土真宗の門徒の寺のイメージが強い。 ・ 観光資源としては宗教との関係をどうするか？（特に外人）。 ・ 門徒さんと観光客の区分が難しい。 ・ 自由に入ってよいのだが、入りづらい。 ・ 門徒以外の人にも入りやすくする。 ・ 入れるところと入れないところの違いがわからない。 ・ 事前に予約が必要なエリアがあるのはちょっと残念。 ・ 普段から見られたら良い。 ・ 書院等の国宝は参拝は事前申込制→文化財保護やむを得ない。 ・ 観光客をもてなす建物が立派すぎて分かりにくかった。 ・ 総合案内所、龍虎殿、景観新しい。 ・ 身近な存在である事の工夫が必要。 ・ ガイドがあってこそ良い。 ・ 唐門などへの案内が少なくとも分かりづらい。 ・ 唐門の説明、本日話された内容もあればより魅力を感じる。 ・ sign 西本願寺→ガイドがいないとサインか？ ・ ユニバーサルデザイン、バリアフリーの取り組みが必要。 ・ 大谷探検隊の活動を見える化（西洋と日本が会う場）。

・ 幼稚園の隣接。素晴らしい場所にある。うらやましい。 ・ 案内の方がおもしろい。 ・ 堀川通からのアプローチとは違った入り方も良いと思う。	
--	--

＜龍谷ミュージアム＞

魅力	課題（改善ポイント）
・ 開設されたことの意義が大きい。仏教、真系の発信基地として。 ・ 仏教芸術の美術館は稀少価値がある。 ・ 一般の方が心を静めて学ぶ場となっている。 ・ 大学や西本願寺がもつコンテンツを伝える役割を実現している。 ・ 仏教に特化したところが個性的。 ・ ていねいな展示でゆっくり鑑賞できる。 ・ 価値ある展示物がコンパクトに見られるのがいい。 ・ 美術品として面白い展示物。 ・ 珍しい重要文化財が見られた。 ・ 仏像を間近に見られるのが良かった。 ・ 年配の方には興味深い展示物。 ・ 解説が易しくユニーク。専門知識が少なくても楽しめる。 ・ 飽きない工夫、イベント、イスの設置。 ・ きれい。ゆっくり見回れた。 ・ 見応えがある。 ・ テーマを自由に設定できる楽しさ。 ・ “絵解き”をするかたちで展覧会がひらかれていて、若い人や仏教などについてあまり興味がない人が関心をもてる内容だった。	・ まだまだ知られていない。何はともあれ PR を！ ・ 入りにくい（PR 不足？）。 ・ アナウンス不足。企画展の周知を！ ・ 龍谷大学内でもっと宣伝すべき。 ・ アクセスがわかりにくい。若者への関心、説明の少なさ、降りる用の階段。 ・ 重厚過ぎて、ある程度の教養と知識が必要。 ・ 仏教がより身近に感じられる展示を希望する。 ・ 仏教にうとい観光客や外国人にも分かりやすくする工夫が必要。 ・ 展示スペースの照明が暗めに感じた。作品をもう少しはっきり見たい。 ・ 子供ずれには来づらい。 ・ 料金が高い？（仕方ないかもしれないが） ・ 観光資源としては宗教との関係をどうするか（特に外人） ・ フィレンツェのフィレンツェカードのような街のミュージアムを見て歩けるパスが有れば良い。

・ 宗教的な意味を除外すれば興味深い。 ・ 建物やカフェがおしゃれ。 ・ 新しい美術館で館内が美しい。 ・ 外観のスタレのイメージが景観とマッチして良かった。 ・ いちろく市として地域との交流があると聞いたが、よいと思う。 ・ 地域にも開かれた運営が行われている。	
---	--

＜東本願寺＞

魅力	課題（改善ポイント）
・ 巨大な木造建築がすばらしい。 ・ 歴史的建物の迫力。 ・ 歴史、エピソードが多い。 ・ 本山としての収容力。 ・ 広い、圧倒的な大きさ。 ・ 木ふすま絵、燈ろう、すべてが立派。 ・ 普通に行って仏教にふれられる場所。 ・ 庭、建物などにいやしを感じる。 ・ 広大な場所で座ってられるのが素敵だった。 ・ 駅前の近くなのに静けさにおどろいた。 ・ 誰でも自由に入ることができる。 ・ 拝観料が不要。 ・ ユニバーサルデザインの工夫あり。 ・ 段差の配慮、バリアフリー、常時開放。 ・ 庭が素晴らしい。	・ 浄土真宗の門徒の寺のイメージが強い。 ・ 自由に入ってよいのだが、入りづらい。 ・ 門徒以外の人にも入りやすく。 ・ 観光客が中に入っていていいことを知られていないのでは？ ・ 閉鎖的であるように思われた（工事中だからか？）。 ・ 段差、修繕工事、途中の中庭。 ・ 庭をもっと PR すればなお良い。 ・ 南端の堀のハスを、花が咲く時期に PR を。 ・ 東西本願寺の連携がもっとあると、仏教や京都の魅力をより発信できる。 ・ 身近な存在である事の工夫が必要。

<京都駅ビル>

魅力	課題（改善ポイント）
15年ですっかり京都の顔になった。 - 京都の玄関にふさわしい。 - 華やかな玄関口。 - 交通の便もよく、多くの方が集まってくる。 - 年間4000万人の来場者。 - 広い。集客力がある - 色々なイベントが可能。 - 近代的建物の迫力。京都駅そのもののメリット（集客）。 - スケールの大きさに驚く。若者にはとても魅力的。 - 若者、ファミリーが楽しめる空間。 - 魅力ある店舗が集結している。 - いろんな設備があって楽しめる。 - 迷路のような楽しさ。 - 東側はあまり行く機会がないが、見る所が多くあった。 - 今日初めて見た施設が見られて良かった。 - 新しい発見をした。観光資源として活用できる。 - 大階段はいろいろな可能性が… - ゆったりとした京都劇場は落ち着く。 - イルミネーションなど新しいデザインを形にしている。きれいで良かった。 - 現在の駅ビルしか見たことがなかったので以前の駅ビルが見れてよかった。	- 大きすぎて全体がつかみにくい。 - 広すぎて迷路のよう。 - お年寄りには厳しい。迷ったり、ころんだり。 - 未だ使い切れていないスペースが多い。 - 南側デッキの活用を（マルシェ等）、階段のLEDの活用、PRを。 - 空中経路の夜の演出（光を利用する等）。 - 東側の認知度が低い。 - 東スペースが生かしきれていない。 - 案内していただくと素晴らしい場所が多かったが、普段知らなかった。 - 京都市民にとって今後どのように活用するのか。 - 緑とか花とか自然のやわらかさをもっと人の見えるところに出したらいいのではないか。 - 外の空気に触れていて、寒い、暑いなど感じた。長時間いるのは難しそうだ。 - あまりにも人が多過ぎる。

＜全体・その他のエリア＞

魅力	課題（改善ポイント）
- このエリアならエリマネ組織できそう。主なプレイヤーは西本願寺、駅ビル。 - テーマ、仏教というつながりでの可能性を感じる。 - 文化、歴史、人、結接点。 - 開かれる寺、大学、宗教の有する力が現代のニーズにマッチする。 - 説法も資源。 - 門徒と観光客。 - 町名エピソード。 - 歴史的エピソード（本願寺さん）、京都駅も。 - 回遊のルート！複数ルート、目に入る！！ 「都市、街の中の Public Space（パブリックスペース）が魅力」→大宮学舎中庭→西本願寺前庭→龍谷ミュージアムの中庭。 - 映画上映の場所めぐり！ - 京都駅起点丹波口まで。 - 東本願寺→西本願寺→嶋原 花屋町通。 - 若い人に！	- 点在するものをまとめるのは難しい。 - 魅力ある“要素”が一杯ある。有機的にどう結びつけられるか。 - 今回のエリアは魅力がいっぱい。マップを作るといい。 - 東西のつながりをもっと出せるはず。何かできないか。 - 両本願寺をつなぐ道（ルート）にもっとにぎわいがあればよい。 - 西さんと東さんを繋ぐ道にもっと演出があればよい。 - 東西の違いがわかる一般的な説明があればよい（宗祖同じ）。東西で畳の敷き方が違うのは何故か。 - 夜の明かり。 - 下京区 Public Space（パブリックスペース）のマップと魅力。 - 正面通りが切れる。わかりにくい。つながる道がない、商店街。 - カンバンが目立たない。歩道の下にサインを！

【ワークショップ後の意見交換】

- ・ 本日訪れた中には、なかなか入りにくい施設も多かった。入りやすいようにしっかりと広報できればと感じた。
- ・ 大学と地域をうまく連携させることができれば魅力となるのではないかと思った。
- ・ 今日訪れたお寺などは、静かだからこそ魅力があるところなのかもしれないと感じた。そういったところと賑わいのバランスをうまく取ればよいと思う。

5. 第5回検討会議（全3回のまちあるきの総括）の概要

【会議資料】

＜JR西日本広報資料＞



2016 年(平成 28 年)春、京都・梅小路エリアに

新たな鉄道博物館が開業します

平成 24 年 12 月 19 日
西日本旅客鉄道株式会社

当社は、平成 28 年春、京都・梅小路エリアにおいて梅小路蒸気機関車館と一体となった新たな鉄道博物館を開業いたします。

1 計画内容

- (1) 所在地 京都市下京区観喜寺町
- (2) 開業予定 平成28年春頃
- (3) 運営方式 (公財)交通文化振興財団に運営を委託
- (4) 建物概要 地上3階建、延床面積約18,800㎡
- (5) 収蔵車両数 50両程度
- 【内訳】 SL23両、新幹線6両、電気機関車4両、ディーゼル機関車4両など
- (6) 総事業費 約70億円

2 鉄道博物館の概要

- (1) SLから新幹線まで、時代を彩ってきた貴重な車両50両程度を展示します。
- (2) 動態SLを間近で観察できる展示や、SLスチーム号への体験乗車を実施します。
- (3) 梅小路運転区構内留置線を博物館に引き込み営業車両等を展示します。
- (4) 「みる、触る、体験する」を重視した展示構成とします。
- (5) 新幹線タイプ、在来線タイプの運転シミュレーターを設置します。
- (6) ジオラマで鉄道模型運転を実施します。

3 その他

博物館名称並びに展示施設、展示車両、収蔵品等の詳細に関しましては、今後関係先等と協議・検討を進め詳細が決定し次第、別途お知らせ申し上げます。

問合せ先
広報部（報道）
06-6375-8889



西日本旅客鉄道株式会社

広報部 〒530-8341 大阪市北区芝田2丁目4番24号 ホームページ <http://www.westjr.co.jp/>
東京広報室 〒100-0005 東京都千代田区丸の内3丁目4番1号 新国際ビルディング9階

鉄道博物館 全景外観(イメージ図)



鉄道博物館 エントランス外観(イメージ図)



展示車両 「プロムナード配置イメージ」



展示車両 「本館配置イメージ」



＜第5回検討会議・「まちあるき総括ワークショップ」の要点＞

- ・ワークショップの際に取りまとめ作業を記録した模造紙と成果発表時の発言内容から共通する意見／コメントとして挙げた以下をキーワードとして抽出し、整理した。

共通キーワード：

1. 情報発信
2. 交通ネットワーク
3. 地域・学生との連携
4. ツアー／イベント企画
5. ガイド養成

○：すぐできること、△：5～6年で取り組めること、□：長期のビジョン・目標、＊：発表時コメント

1. 情報発信に関する主なコメント

①施設のPR

- ・市場やKRPの認知度向上 ○
- ・丹波口駅と市場のアクセスが良いことを発信 ○
- ・嶋原商店街の魅力をうまくPR ○△
- ・東・西本願寺 拝観料なしのPR ○
- ・大宮学舎：文化財の建物を広く知らせる努力（学生もその価値を知らない） ○
- ・龍谷ミュージアム：龍谷大学生以外も入れることの認知 △
- ・部外者でも入れるというサイン ○
- ・施設への案内標識 ○、他。

②PRの内容・アイデア

- ・様々なジャンルの施設をジャンル分け ＊
- ・趣きの違う施設の関連性の整理 ○
- ・点在する魅力的なスポットをつなぐストーリーを作ってPR △
- ・Facebook、Twitterの利用 ○
- ・丹波口駅：パンフの販売 改札 ○
- ・京ナビで京都の人向けに各施設のキャンペーンの広報 ○
- ・旅行雑誌に取り上げてもらうような努力 ○
- ・京都内の小中学校＋京都外の修学旅行→売り込み ○
- ・下京区西部エリアの各施設を掲載した案内地図 ○
- ・個々の施設中で自由に出入りして観光できる案内マップや営業情報 ○
- ・情報発信、位置情報と連携したアプリの開発 ＊
- ・各施設へどのくらいの時間で行けるか、また見学に必要な時間なども情報発信 △＊
- ・バリアフリー、多目的トイレの情報提供 ○
- ・駅で時間をつぶしている方への案内 ＊
- ・地元の人にしっかりと発信 ＊、他。

2. 交通ネットワークに関する主なコメント

①ルート・アクセスの整備

- ・ 京都駅周辺→案内地図 ○
- ・ 駅前から各施設への連絡通路「遊歩道」 △
- ・ 水族館、鉄道博物館などのゴールデンルートとの連携 △
- ・ 花屋町通の整備 △、
- ・ ルート整備 本願寺⇄駅⇄本願寺 △
- ・ ルート整備 京都駅→梅小路 汽車 □
- ・ 京都駅からのアクセス改善 □、他。

②駅や鉄道の新設

- ・ LRT（地区内） △□
- ・ モノレール（京都駅発） □＊
- ・ 新駅の設置（丹波口と京都駅の間、京都鉄道博物館前駅、梅小路公園駅） △□＊、他。

③丹波口駅

- ・ 駅前案内板 △
- ・ 観光向けのサイン △
- ・ 南西改札口 △
- ・ 丹波口駅 レンタサイクル △
- ・ 丹波口駅のリニューアル □、他。

④鉄道以外の交通機関

- ・ 歩道の案内サインの充実 ○
- ・ 西部エリア周遊バスの運行（できれば無料で） △＊
- ・ ベロタクシー △
- ・ 梅小路公園にレンタサイクルを設置 △
- ・ 七条通りに自転車専用レーンを設置 □
- ・ まちなか歩道の美装化（タイルばりなど） △他。

3. 地域・学生との連携に関するコメント

①地域との連携

- ・ 各施設の連携強化（周遊性のある割引きチケット） ○
- ・ 地元小学校との連携、交流の推進 ○
- ・ ネットワーク会議 ○
- ・ マネジメント組織 ○
- ・ 横のつながり、ネットワークづくり △
- ・ 親子三代に渡っての認知 □
- ・ 観光客、地域、相互連携 ＊、他。

②学生との連携

- ・ 学生の活用 △
- ・ 空き店舗（七条）と大学との連携（地元サービスと観光情報、カフェ） △
- ・ まちづくりのフィールドワークを行う学部である龍谷大学政策学部との連携 *
- ・ 龍谷大学の授業の中で下京全体のフィールドワーク実施 *
- ・ 学生によるソーシャルメディアを活用した情報発信（卒業後も次の学生が継続的に取り組み、大人とは違った切り口で発信） *、他。

4. ツアー／イベント企画に関する主なコメント

①ツアー企画

- ・ 各施設の従業員が地域をめぐるツアー ○
- ・ おみやげ（京野菜など）つき市場見学ツアー ○
- ・ 市場の後、KRP を見学するツアー *
- ・ 200 年の時をかけるツアー 角屋～嶋原商店街～蒸気機関車館～水族館 ○
- ・ 本願寺西⇄東比較ツアー ○
- ・ 駅ビル探検ツアー／駅ビル巨大迷路ツアー ○
- ・ 輪違屋＋角屋セットで環境教育、学習の場→プログラム化 △
- ・ 地域におけるスタンプラリー ○△
- ・ カテゴリ別ルート（地元の人、観光客の人） *
- ・ 観光ルートづくり→旅行代理店へ売り込み ○
- ・ 時代の設定、ストーリー作りなど多用なコースを作って PR □*
- ・ エリアパスポートの検討 □、他。

②イベント企画

- ・ 商店街に人を集客するイベントを定期的で開催（朝市、夜市等） ○
- ・ 施設と商店街とのタイアップ企画（入場券の半券でサービス等） ○
- ・ 大宮学舎 観光客誘い込む PR を→アーティストなどとのコラボイベント等 ○
- ・ 龍谷ミュージアム わかりやすい仏教講座 ○
- ・ 島原を学び、遊ぶ連続講座 ○
- ・ 駅ビルイベントの実施（ウォーキングラリー等） ○、他。

5. ガイド養成に関する主なコメント

- ・ 案内ガイド、ボランティア育成 ○□
- ・ 本願寺常駐のガイド（ボランティア？）英語、中国語にも対応 ○
- ・ 水族館、音声案内や説明スタッフの充実、対応を！！ ○
- ・ ガイド音声に向けての社会実験 △、他。

【ワークショップ後の意見交換】

(エリアの魅力づくり)

- ・ この先取り組めることとして一番議論となったのが、“食べるところがない”ことだ。商店街もあるが、少し元気がなくなってきており、学生さんの力を活用し、下町で暮らすような働き掛けが必要ではないか。
- ・ 将来的には両本願寺を中心とし、仏教の重みを大切にしたまちづくりをベースに置くべきだ。
- ・ この地域は色々な多様性がある地域であり、それをひとくくりにはなかなかできない。多様な面で活用したほうがうまくいくのではないかと思う。
- ・ 仏教やアミューズメント施設など色々なものがあり、それらをどうつなぐかという点で、ニーズに応えられるやり方をしていければと思う。
- ・ そこに来れば何かの魅力を感じられる、地域としてはあそこに行けばこれを買える、といった独自の魅力が少しずつ増えてくれば地域の魅力がつながるのではないかと思う。
- ・ それぞれの人たちが感じる魅力というのは違う。その魅力がきっちりと届けば人も来ると思うが、互いに連携しなければ周遊というのは難しいと思う。
- ・ 鉄道博物館の完成までに飲食施設を増やすことが大事であり、ぜひ商店街などに設けていくような方策が取れないか。
- ・ 京都水族館では駅ビルの飲食店のパンフレットを配布すると一定の効果があつたとのことだ。水族館として、“一人勝ちしないように”という配慮から飲食店を作らない方針があつたそうだが、せっかくのこの配慮を生かすことが必要ではないか。
- ・ 今年水族館ができ、3年後には鉄道博物館ができることから、大きなインパクトがあることが分かっているので、今から準備が必要。そのためには他地域に学ぶことも必要であり、例えば大宮に鉄道博物館ができて周辺がどのように変わったのか、どういった施設ができたのかといったことを予め調べるなど、他の事例を参考にすることが有効だと思う。
- ・ 観光客を取り込む観点からは、京都に来る5000万人の観光客を漠然と対象とするのではなく、このエリア、水族館と博物館に来られる200万人を超える方々をいかに西部エリアに引っ張り出すかということに絞って考えた方が効果的ではないか。
- ・ 平成25年は新撰組結成150年に当たり、ブームに乗り遅れないようにしたい。
- ・ この地域は人も増えてきており、学生さんもたくさんいるので、そこを基本姿勢として考えていきたい。
- ・ 共通のコンセプトとして、このエリアはどんな世代の人でも楽しめる／いろんな時代を楽しめる、という魅力がある。それを伝えられるストーリーを描ければよい。
- ・ このエリアには、平清盛の井田跡、源為義の塚もある。そういった事柄に事欠かない地域なので、歴史的なストーリーを持った地域として開発していきたい。
- ・ 観光客の方々に京都、下京区西部エリアにたくさん来ていただき、地元にお金を落としていただくことが必要だ。そのためには商店街の活性化が大変重要。しかし商店街が、コンビニや大型店舗に品揃えで対抗しても勝つことは難しいので、食べるものなら食べるもの、土産ならここにしかない土産など、ネットでは買えないものや食べられないものに特化し、それを宣伝することで活性化できればと思う。

(情報発信)

- ・ 観光案内の面では、地域性を生かした観光客へのアプローチも必要。
- ・ 1時間で回れるコース／2時間で回れるコース／平安時代を満喫できるコース／新撰組に関連したコースなど、色々なコースを作ろう。そしてそれぞれのコースに関して、バリアフリー、車いすで入れるトイレの有無、車いすでまわることができるか否かという情報を出していくことも必要。
- ・ 本願寺については、あまりの広さに圧倒され、中に入ってよいのか迷う面もあった。“お寺の中まで入ってよい”ということだったので、それが分かるような情報発信ができればと思う。
- ・ 情報発信ができるアプリを作り、近くにある施設の情報を位置情報と連携して発信したり、読み物として楽しいものを発信したりできればよいのではないかな。
- ・ どの施設にどのくらいの時間で行けるか、見学にどれくらいの時間が掛かるかなどを発信することで、それぞれの方の時間の中で自由にカスタマイズして回れるといったことも考えられるのではないかな。
- ・ このエリアは、魅力ある施設や観光資源が詰まっているエリアだが、やはり一番の強みは“駅そば”であることだ。その利点を最大限に生かすために、水族館や鉄道博物館を目指して来られた方だけでなく、一般の観光客で駅で時間をつぶしている方などを対象に持ち時間に応じてちょっとした散歩ができるような案内ができればと思う。

(交通ネットワーク)

- ・ 壮大な予算が必要になるが、予算のことはさて置き、将来的にこの地域にL R Tの交通網を作ってはどうか、そうすれば簡単に各施設を回れるのではないかな、もっと言えばモノレールを作ってはどうか。
- ・ L R Tはなかなか難しいなか、地域を循環する小さなバスなどは一つの検討課題かなと思う。
- ・ 長い目で見れば梅小路公園辺りに駅があればよい。
- ・ 鉄道博物館前に駅ができないだろうか。お金も掛かるし、人がたくさん来る必要もあるため簡単ではないが、鉄道博物館ができれば水族館と併せて300万人くらいの訪問者数となる。人を引っ張ってくるために、できるだけ早く“鉄道博物館前駅”を作るといった目標値を設定して活動することが、地域の連携にもつながるのではないかな。
- ・ ルート整備の一環として、せっかく走っている汽車を使い、蒸気機関車館と京都駅の間を移動できるようにしてはどうか。
- ・ 梅小路公園内で水族館や鉄道博物館などができ、多くの人が集まってくる。ここを一つの核として、そこから放射線状に各施設に案内できればよいと思う。また、人が集まれば食べる場所が必要になるが、すし市場などとの連携の可能性もあるのではないかな。
- ・ 鉄道博物館ができるとお客さんがたくさん来られ駐車場が大丈夫かという意見が出た。現在、公園内には200台程度の駐車場があり、博物館の完成により100台程度に減ることとなる。それについては、七本松通の駐車場に200台が駐車可能であり、日曜祝日限定で市場内には500台の駐車が可能である。ただ、京都市は“歩くまち”を打ち出しており、公共交通機関でお越しいただきたい。

(地域との連携)

- ・ 観光客もたくさん来られるが、観光客は結構“水もの”的な面もあるので、地元の方に向けてしっかりと発信していくことも必要だ。地元の人でも知らないことも多いので、改めて魅力を感じていただけるような取組も必要だと思った。
- ・ 観光客も大切だが地域に根付くことも必要であり、相互連携をベースに考えていきたい。
- ・ 商店街の空き店舗は、観光客だけでなく、そこに住んでいる人たち向けに、子育てや高齢者の支援など地域に根付くことをベースとした視点を入れながら考えてもよいのではないかな。
- ・ 地域に根差したという点では、このエリアには大学だけでなく小学校もある。地元の小学校との連携の取組も始まっているが、もう少し小さい子どもたちや地元の子どもたちにも魅力あるまちづくりができればと思う。
- ・ 6つの商店街と5つの小学校が連携して交流する取組をきっかけに、親御さんにも商店街に関心を持ってもらえたらと思う。
- ・ 地元の商店街が議論し、たどりついた一つの結論が、“地域住民を大切にすること”。その考えが形となったのが、6つの商店街と5つの小学校の合同宣言、子どもたちの就業体験である。これをスタートラインとして、子どもを大事にする商店街となれば、そこから色々なアイデアが生まれてくる。水族館や鉄道博物館には子連れの方々が多く来られると思うが、そのときに子どもを大事にする商店街があれば本当の連携が生まれるのではないかな。
- ・ 我々自身が他の事例などを学びながら新しいものを生み出していくことも必要だ。
- ・ 既に取り組みされているかもしれないが、計画をつくることと学ぶことに加え、同じエリア内で暮らして仕事をしているのだから、お互いに小さな一歩を踏み出し、その成果をこの検討会議で報告し合うような、そんなこともできればよいと思う。

(学生との連携)

- ・ 商店街の空き店舗が出てきているので、そこを利用して学生さんや若い人など、地域の人たち以外の力も借りて、住民だけでなく、ネット販売なども含めて世界を相手にしてはどうか。
- ・ 龍谷大学があるので若い人の力を生かすほか、観光協会の力も使って情報発信に努めていければと思った。
- ・ 龍谷大学があるので、簡単にソーシャルメディアを使いこなすことができる若い方々、学生さんの力を借りてツイッターやフェイスブックなどで情報発信していただければどうか。これらのツールは継続していくことが非常に大切になるので、学生さんたちにグループを作っていただき、卒業後にもメンバーを入れ替えながら続けていただければ、大人とは違う切り口でPRできるだろう。
- ・ 京都には多くの学生がいて、4年ごとに入れ替わり立ち替わり、他府県から来られて京都のファンになって戻っていかれる。そのような学生たちが、京都のことを地元で話してもらうだけで京都のことが認知されることになる。
- ・ 梅小路という場所が他府県の人には知られていない中で、多様な感性・価値観を持った若い人たちの力を借りて遠くまで発信できれば街全体の魅力を広めていただけるのではないかな。
- ・ 学生の力の活用として、まちづくりのフィールドワークを実践的に行う学部などともっと連携できればよいのではないかな。
- ・ 龍谷大学に“下京全体のフィールドワーク授業”をしていただくと、色々な意味で効果が出るのではないかな。

(ツアー企画)

- すぐにできること、5年程度で取り組めることとして暮らしている方や従業員がツアーをすることが挙げられた。そうすると、それを進めていくためのネットワーク／仕組みづくりも必要となる。
- 東本願寺と西本願寺を含め、コアなところを回るようなルートを設定してはどうか。そのときにどこで食べればよいか分からないのでは困る。
- 色々なものがあるエリアであり、地元の人と観光客が同じルートを回るのは無理がある。カテゴリ別などに分けて回ってはどうか。
- 龍谷ミュージアムや水族館など性質の違う施設が集まる点を考慮する必要があるが、スタンプラリーもできるのではないかな。
- 市場や七条通沿いの商店街等を見て回ったが、魅力ある施設が少ないというのが正直な感想。そのため、まずは知ってもらうための活動が必要であり、市場ではお土産を付けた見学ツアーをしてはどうか。
- このエリアには古い歴史的な建物から近代的な建物まで、また高齢者に優しいものから若者に好まれるものまで、様々なジャンルの施設が集まっている。これらをジャンル分けするとともに、歴史的なものについては価値あるものを分かる方にどのように伝えていくかというコース設定を。
- “下京西部観光体験・学び・癒しツアー”を実施してはどうかバリアフリーを含めてきちんと整備した方が、海外や高齢の方など多くの人を受け入れることができる。言語を含めてバリアフリーをベースに色々考えた方がよい。
- “市場を見終わった後にK R Pを見学するツアー”など、相互に連携して具体的に実現していくことが大切ではないか。
- “駅ビル探検ツアー”“本願寺の講和ツアー”などがあればよい。バリアフリーの観点から留学生等も含めて理解してもらうことが必要だ。
- なかなか連携できていないところをツアーなどで連携できないか。
- K R Pを観光資源として見ていただけるようにしていくことも一つの課題。K R Pが地域と連携できればと思う。

(ガイド養成)

- 東西本願寺を初めて歩かせていただき、その広大さ・素晴らしさに感銘を受けた。宗派の特徴として、お守りを売らないなど観光寺院にはならないという独特の雰囲気を持っている。それを観光とどうつなげられるのか。誰でも入ることができる空間であることを色々な方に伝えたいと考えたとき、ボランティアで外国語に対応できる方がいれば、京都駅を多く訪れる外国人観光客に対応できるのではないかな。
- 観光案内の充実は非常に大きなポイントであり、本願寺で観光案内をするボランティアが充実すれば、さらに人が来ていただけるのではないかなと思う。
- 東西本願寺については、外国向けのパンフレットにどのように紹介されているかを調べる必要があると思う。もしかしたら両本願寺が掲載されていないかもしれないので、その場合は掲載してもらうように働き掛けることが必要だ。

6. 第6回検討会議の概要

【会議資料】

＜梅小路公園の拡張再整備＞に関する報告資料＞

(報告資料)

平成25年2月6日
京都市建設局
(担当：水と緑環境部緑政課)

梅小路公園の拡張再整備について

梅小路公園では、昨年3月に京都水族館が開業し、多くの市民や観光客により、賑わいが増していることに加え、平成28年春頃に新たに鉄道博物館を開業する計画が西日本旅客鉄道株式会社（以下、「JR西日本」という。）から発表されるなど、民間活力による公園機能の充実が進んでいます。

また、市の公営交通は、今年度、100周年の節目を迎えています。市では、これらを契機に、梅小路公園をもっと魅力的な空間にするため、子どもが伸び伸びと遊び、大人も楽しめる2つの広場を新設するなどの整備を実施しますので、概要を御報告いたします。

【整備概要】

芝生や緑あふれる広々とした交流ゾーンとして、チンチン電車や市電を活用し、新たな賑わいゾーンとして再整備します。

京都水族館の西側には、新たに「市電ひろば（仮称）」を整備し、JR西日本の社宅跡地の西半分には芝生広場や大型遊具の新設を中心とした「すざくゆめ広場（仮称）」を整備する。また、両ひろばには乗降場を設置し、チンチン電車を走行させます。

「すざくゆめ広場（仮称）」には、チンチン電車整備場と合わせて、休憩施設（カフェ）を設置します。

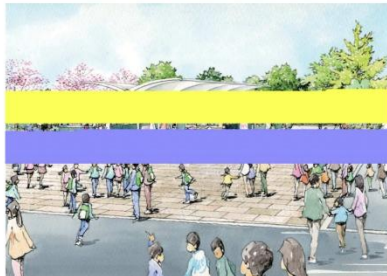
1 「市電ひろば（仮称）」の整備 ～市電の静態展示と新たな活用～

「市電ひろば（仮称）」などを整備（約700㎡）し、年式の異なる市電車両（7両）を常設展示します。

【1両：運行当時の姿で常設展示】

【6両：コンシェルジュ機能や貸店舗として活用】

* 保管している市電一覧（別紙1参照）



型式名	車両製造時期
広軌1型	明治45年
500型	大正13年
700型	昭和33年
800型	昭和31年
900型	昭和32年
1600型	昭和41年
2000型	昭和39年

2 チンチン電車の動態保存（改良・移設）

現在、架線方式で運行している日本最古のチンチン電車を、京都のものづくりの力を生かし、地球環境にも優しい最新鋭の蓄電池（EV化）を動力源とするチンチン電車に改良します。

なお、公園内の運行にふさわしい緑化軌道（軌道敷の緑化）を整備します。



3 「すざくゆめ広場（仮称）」の整備

鉄道博物館の建設を契機に、現在のふれあい広場（鉄道博物館建設予定地内）の広さに相当する面積（約5,700㎡）の広場を整備します。

- ・芝生広場
- ・大型遊具（市内最大規模）
- ・休憩施設（カフェ）

※「すざくゆめ広場（仮称）」の名称及び大型遊具の種類については、今後、市民の皆様の御意見をいただきながら決定します。



<用地面積>

「すざくゆめ広場（仮称）」（梅小路公園に隣接するJR西日本社宅跡地の西半分程度）：約5,700㎡

「市電ひろば（仮称）」（京都水族館の西側用地の一部）：約700㎡

上記2箇所を結ぶチンチン電車の軌道敷地など、隣接する園路部分：約3,400㎡

※1 既存の公園区域を含め再整備面積は、9,800㎡程度の予定（別紙2赤線で囲んだ部分）

※2 社宅跡地の西半分はJR西日本から新たに借受け、社宅跡地の東側用地の一部（別紙2Bの部分）は、本市所有の梅小路公園敷地（別紙2Aの部分）と相互貸借することで、公園用地の一体利用を図ります。

4 民間活力の導入

休憩施設（カフェ）の設置については、環境や景観に配慮し、公園との一体感を重視した店舗運営提案を、また、市電の展示・活用については、地域の活性化につながるアイデアを含んだ活用提案を、それぞれ民間事業者から募り、運営事業者を選定します。

なお、これら公園施設の基盤整備については、本市が行います。

5 総事業費

約5億7千万円（見込み）※平成25年度予算として提案する予定です。

6 スケジュール（予定）

平成25年4月 市電の展示・活用、休憩施設（カフェ）運営事業者募集

6月 拡張公園整備着工

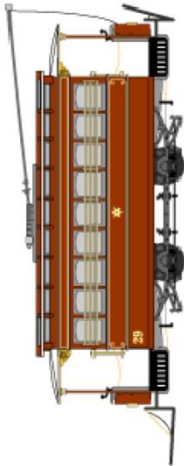
10月 チンチン電車運行休止

11月 拡張公園部分開園（大型遊具供用開始）

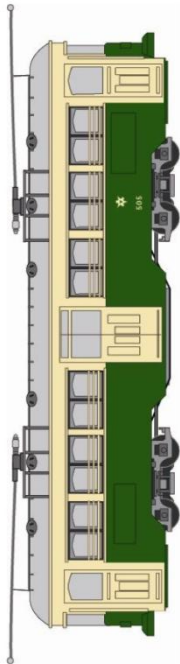
平成26年1月 拡張公園全面開園（チンチン電車新規運行、カフェ等開業）

梅小路公園内に新たに常設展示する市電車両一覧

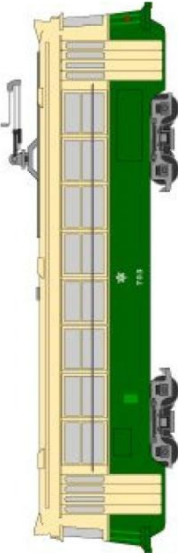
広軌1型



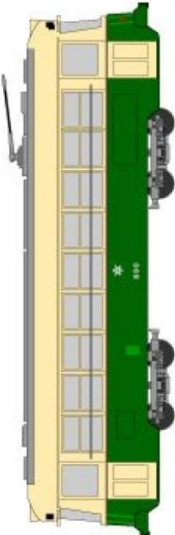
500型



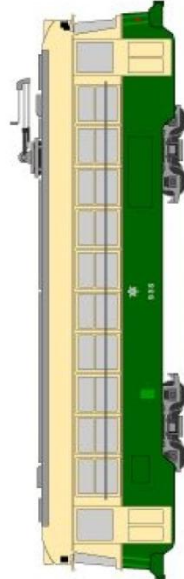
700型



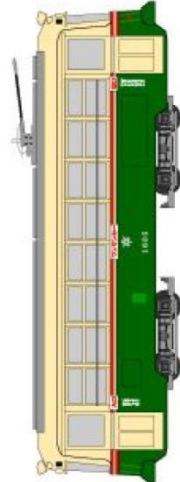
800型



900型



1600型



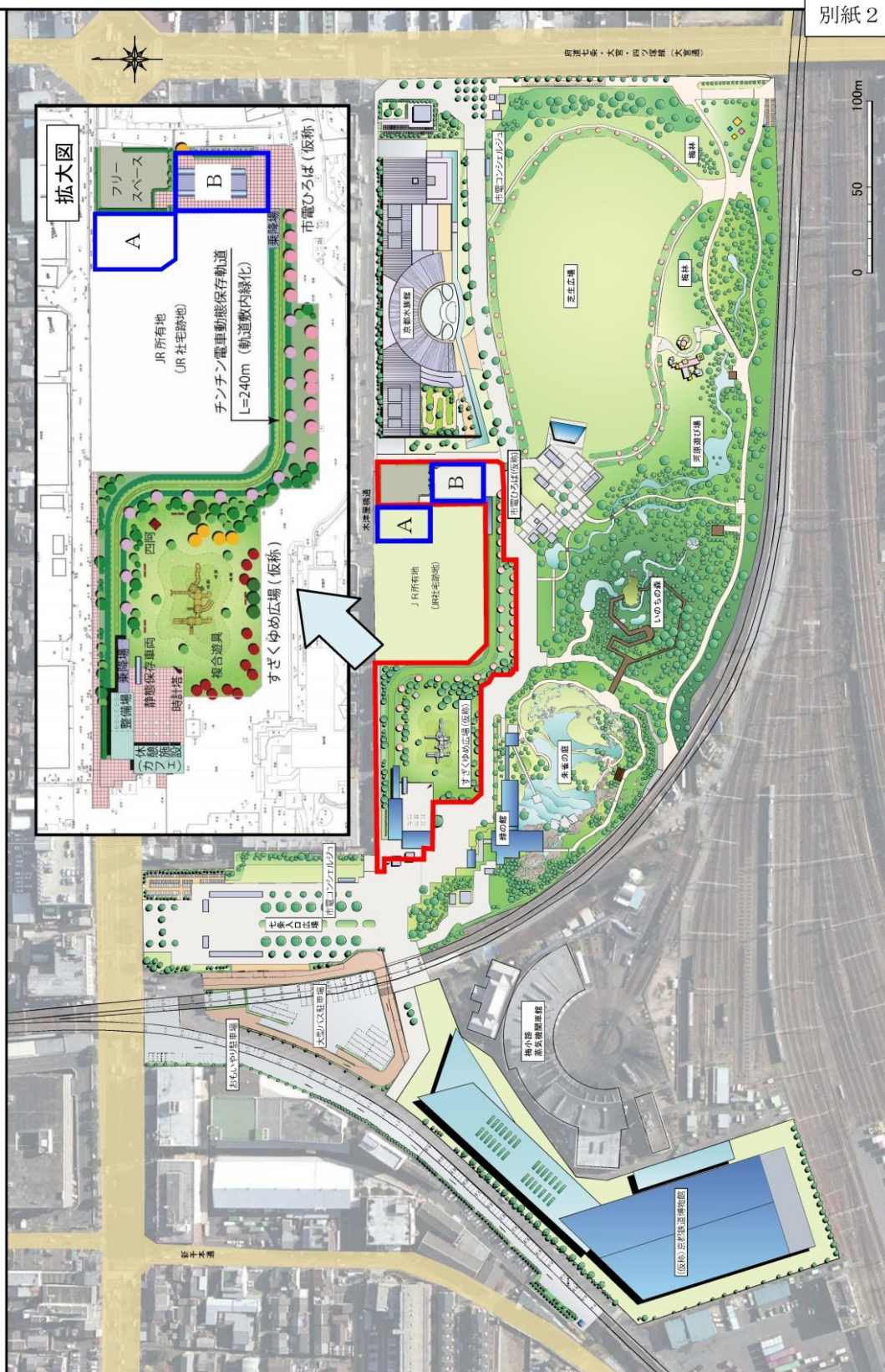
2000型



* 各車両の製造時期一覧

型式名	車両製造時期
広軌1型	明治45年
500型	大正13年
700型	昭和33年
800型	昭和31年
900型	昭和32年
1600型	昭和41年
2000型	昭和39年

梅小路公園施設配置図



<講演:「エリアマネジメント」と「下京区西部エリアの活性化」>

講師: 特定非営利活動法人 京都・地球みらい機構 常務理事・高梨日出夫氏

「エリアマネジメント」と 「下京区西部エリアの活性化」

平成25年2月6日:NPO法人京都地球みらい機構 高梨日出夫

ブランド化する際、名称は大切。大事にしましょう!
⇒講演では「**仮称)京都・下京ウエスト**」として提案。



本日のテーマ:

「エリアマネジメントを学び、下京区西部エリアの活性化に活かす」

■エリアマネジメントを学ぶ考える

1. 地域環境改善(公共空間:公園、市場、街路)とコミュニティ・ビジネスの再生とエリアマネジメント活動

①原点:ユニオンスクエア・ニューヨーク(NY)は公園周辺の環境改善と地域ビジネス&都市居住ライフスタイルの再生活動

②成功例と展開:NYの都心部での「安心安全・歩いて楽しいNYと観光客」等

2. エリアマネジメントとは何か、を考える
①考え方、時代背景やライフスタイル等
(1970年代⇒2010年代)

②活動主体:「公民連携」と自立的な組織
③活動範囲:一定の広がり地域内の活動連携
④活動のための財源等が重要 等

■下京区西部エリア(仮称:下京ウエスト)の活性化に活かす

1. 検討会のワークショップを振り返る
:「地域の思いをすくい上げ・つなげる事がエリアマネジメント」

①個々の問題を乗り越えて、連携する下京ウエストエリアの活性化

②アイデア、キーワード等

2. 下京ウエスト活性化とエリアマネジメント:「連携プログラム(試案)」

①連携プログラムの考え方や活動方針
②地域環境の改善等、継続的に考え、活動となる組織・財源について

エリアマネジメントの原点に学ぶ:

主要都市(ニューヨークやロンドン等)の自主自立的な地域活性化

1) 公共空間(街路、公園、市場等)を中心に、地域環境改善と共に、コミュニティ・ビジネス支援を目的に自主活動と公民連携

①1970年代ニューヨーク市等自治体は最悪の財政難のため、地域環境改善等の維持管理、人材投与も困難な状況。

②公共空間での環境が悪化、治安の悪さ、不衛生等で都心が空家が増加・荒廃し、中間層等は郊外に住みかえ。一方、都心部は空洞化し、観光客も減少する等。

2) 企業、商店、市民、NPO等の活動。

特に、土地の権利者が主体的な活動をしなが、行政とも連携し、公共空間を中心に様々な地域環境改善の取組(BID: business improvement district)が増える。



エリアマネジメントの原点に学ぶ:

主要都市(ニューヨークやロンドン等)の自主自立的な地域活性化

1) 公共空間(街路、公園、市場等)を中心に、地域環境改善と共に、コミュニティ・ビジネス支援を目的に自主活動と公民連携

①1970年代ニューヨーク市等自治体は最悪の財政難のため、地域環境改善等の維持管理、人材投与も困難な状況。

②公共空間での環境が悪化、治安の悪さ、不衛生等で都心が空家が増加・荒廃し、中間層等は郊外に住みかえ。一方、都心部は空洞化し、観光客も減少する等。

2) 企業、商店、市民、NPO等の活動。

特に、土地の権利者が主体的な活動をしなが、行政とも連携し、公共空間を中心に様々な地域環境改善の取組(BID: business improvement district)が増える。



BID(ビジネス環境改善地区)とは?

公民連携によるエリアマネジメントを支える活動組織と財源

1) 課題地区をBID(ビジネス環境改善地区)指定。

①行政と地域が協議、一定エリアで超過税を徴収、地域組織に還付。BID還付金等や寄付・イベント収益等を活動財源として、地域環境改善と地域ビジネス再生を支援。

②評価満足度調査の実施。皆が納得し、継続活動に活かす等。

③健全な地域コミュニティの再生による、地域不動産価値の向上、集客。

④様々なBID活動と事務局・地元エリアマネジメント組織等

⑤地域の誇り「Civic pride」

2) 現在、NY市中心部にはと地域パートナーシップが指定され、エリアマネジメント活動。60以上BID地区

3) 例えば最初のユニオンスクエア・BID(1986年〜)財源の構成

①還付金

②寄付やイベント収益 など

NYのBID:地区の特性に応じた多種多様なBIDが存在。
現在は60以上の地区が指定されている。



■ BIDの財源
①またる財源は資産所有者から負担金(負担金、補助金、寄付金、プログラム収入、賃料など〜グラウンドセントラルBIDでは94%が負担金など)
②負担金(資産所有者負担の原則)とBID各地区で決定(※資産価値、面積、門口率基準は決まらず)
③法律で上限ありNY州では資産評価額の2%以内、市の財源税の20%以内

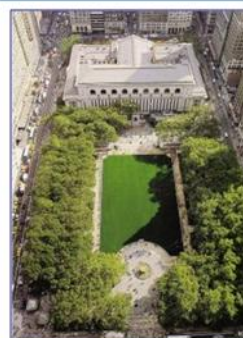
■ BIDの母体:地区管理組織(District management organization)
・全ての資産所有者で構成、構成員は負担金支払い義務
■ BIDの運営:NPO法人
・憲章決定機関:規程案/法律によりメンバー構成が規定あり
・事務局: District manager が有給で雇用、日々の業務進行を行う

■ BIDにおける官民連携:防犯・治安維持
①グラウンドセントラルはセキュリティアライアンス(官民連携組織)
②タイムスクエアでは、市政府、市裁判所と連携して、軽微な犯罪のみを扱う、コミュニティ裁判所を設置

■ BIDにおける官民連携:都市再生
①治安、24時間都市化のための都市居住(住宅コンバージョンの推進と規制緩和)
②地場の継続性確保のためファミリー層誘致(学校の買収など)

成功例:「ブライアントパーク」とBID

NYの中心部、公共図書館等や歴史ある公園の周辺地域企業 等がBIDを立ち上げ、「安心安全で様々なイベント開催できる人気の公園に再生」



1847年 公園開設
1930年〜 公園が荒れ始める
1979年 PPSレポート
1980年 ブライアントパーク修復法人設立
1980年 BID指定
1990年 市がBIDに運営、管理を委託(年25万\$拠出)
1992年 修復工事を完了

成功例:「ブライアントパーク」とBID

子供～大人まで憩える、さまざまな活性化のアイデアと施設整備



成功例:NYのストリートルネッサンス

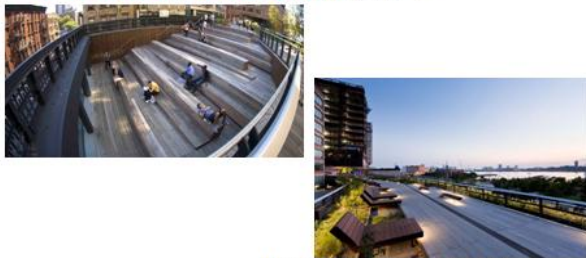
ニューヨークの様々な地区がBIDにより活性化を果たし、地区の環境改善と共に集客、地域ビジネスが再生

一部車道を歩道に拡幅による 安心安全な歩行者空間に転換(2006年～)



ニューヨークの様々な地区がBIDにより活性化を果たし、地区の環境改善と共に集客、地域ビジネスが再生

1. 周辺のハドソン川沿い、元食肉市場の高架の鉄道の引込み線をみどり一杯の空中公園「ハイレイン」に修復改善 (2009～)



上記写真はニューヨーク市役所HPから転載

BID原点「ユニオンスクエア」:公園と周辺地区の環境・コミュニティの再生と共にNY最大のグリーンマーケットの場へ

1970年代

- ①犯罪率が最悪「針公園」、周辺は空家等増、地域ビジネスも困難
- ②行政は財政難から、公共空間の管理に人も費用も避けない状況
- ③70年代に地権者等で自主的に公園の清掃・安全管理、グリーンマーケット等の定期イベント開催(76年～現在)。
- ④1980年代、地主から市長に働きかけ、NYの最初のBID地区へ

2010年

- ①地権者、地域企業の自主組織により、公園が安心安全で衛生的になりきれいに、周辺の地域ビジネス/レストランも盛況。
- ②最大の集客イベント、グリーンマーケット(毎週4日間開催)
・土曜のグリーンマーケット等は10万人以上、地域及び観光客の集客
- ③地下鉄ユニオンスクエア駅、年間3600万⇒10万人/日
- ④公園の再生(安心安全で衛生的)を通して、周辺エリアのコミュニティ・ビジネスの再生 → 地域居住者と共に観光集客も増加

成功例:ユニオンスクエアとBIDによる継続的なエリアマネジメント活動

:「安心安全で衛生的な公園により、周辺コミュニティ・ビジネスの再生。周辺居住者が増加すると共に、観光集客も増加。

週4日開催される公園内で行われるグリーンマーケット



「ユニオンスクエアパートナーシップ」の主な活動

- 1)活動範囲:ユニオンスクエアを中心とした周辺地域を含む一定エリア
- 2)公園の衛生管理、警備と共に公園の修復等、施設維持・管理
- 3)地域のイベント&マーケティング(印刷、WEB等)
- 4)定期的なイベント
 - ①最大の集客イベント、グリーンマーケット(週4日間開催)
 - ②公園内で周辺レストランのテスティング・イベント等
- 5)地域のスモールビジネスへの資金援助、アドバイス等
(ファサードの補修、庇を設置、経営支援等)
- 6)継続的な満足度等評価分析
- 7)財源:2/3BID還付金 1/3 寄付金

日本においても、様々な組織形態のもと、自主的に地域の環境改善等、一定のエリアの活性化活動に取り組む例が増えている

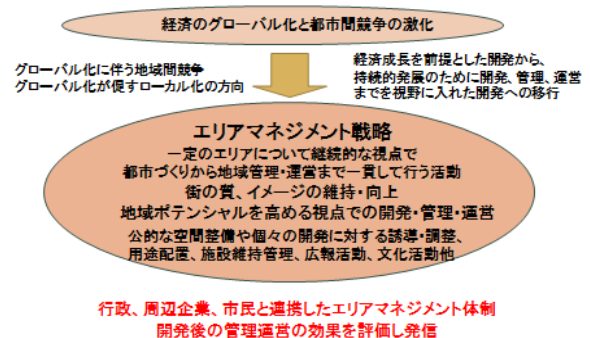
1)時代背景

- ①人口減少と共に、リノベーション等、街自体が維持管理の時代突入
- ②公共主体のシビルミニマムの時代から、新たな公民連携・継続的なまちづくり活動の時代に
- ③地域の独自性、又、国際化にも繋がるグローバルな時代
- ④行政の必ずしも潤沢でない時代 等

2)様々な形態でのエリアマネジメント活動

- ①主要ターミナル周辺地区の活性化(東京駅周辺:大丸有地区、福岡市博多・天神地区、大阪駅周辺地区)等
- ②公園の維持管理/パークマネジメント
(例:東京都、天神駅前公園、池袋駅前広場等)
- ③商店街の活性化(例:高松の丸亀商店街等)

エリアマネジメントとは



国内の様々なエリアマネジメントと成功・活動例

1. 「We love 天神」と警固公園のイベント (博多・天神地区)



2. 個々の店舗営業から、エリア毎に業種業態を決める商店街へ再生、商店街を株式会社化 (「高松市・丸亀商店街」)



上記写真：高松丸亀商店街・街区
国土交通省HPより転載

下京ウエストの活性化とエリアマネジメント：
検討会ワークショップの成果と共に、今後の展開を考える



「地域の思いをすくい上げ・つなげるエリアマネジメント」

- 1) 下京ウエストでの共通課題は何か？
- 2) ワークショップの成果と次の具体活動に結びつける
- 3) その為の活性化を目標に地域連携プログラムを考える
 - ① エリア個々の課題を乗り越えて、下京ウエスト全体の地域環境改善+地域ビジネス支援活動につなげる
 - ② 継続的な活動の為の組織も視野に置く

岡崎地域活性化ビジョンも参考にしながら、検討会の発展として下京ウエスト活性化のための協議会につなげる

- ③ 継続的なエリアネ活動と様々な財源の確保が努める等

下京ウエストの共通課題は何か、見極める事！

- 1) 梅小路公園周辺地区の集客を地域全体に、如何に取り込めるか⇒梅小路公園での様々な連携プログラム
 - ① 新しい鉄道博物館ができる平成28年春には、年間約300万人が集客が見込める。
 - ② 従来の地域の公園とは異なる使い方と課題も維持管理も必要になる。
- 2) 人口増加するエリアと地域コミュニティの維持運営

⇒ 地域ビジネス、教育環境の場、お祭り、地域の公園、
- 3) 地域魅力(歴史・文化・環境、大学や公園、JR嵯峨野線等)を通して地域の誇り等を再確認、共有化、発信等
- 4) その他、地域にある未利用地の活用はどうか等

個々の問題を乗り越えて下京ウエスト活性化につなげる・連携の仕組み・プログラム(案)

■3つのプログラムの視点

- 1) 梅小路公園で様々なプログラムの企画・実施
 - ・様々なプログラムの検討実施：丸亀ネギ祭り/市場との連携、食育と環境学習、下京NO.1と公園パル、体験学習ツアーのスタート拠点)等その他、
- 2) 季節感も演出する地域全体での同時イベント等「下京ウエスト・祭り」
- 3) 国内外との交流・連携
 - ① 国内外の公園、広場等との交流「シスターパーク」等(NYのユニオンスクエア、プライアントパーク等、警固公園/博多など)
 - ② 下京ウエストの訪れる海外からの観光客へのおもてなしサポートと発信
「留学生ガイド」⇒NPO京都・地球みらい機構、Global Voices from Japan等の連携・支援活動

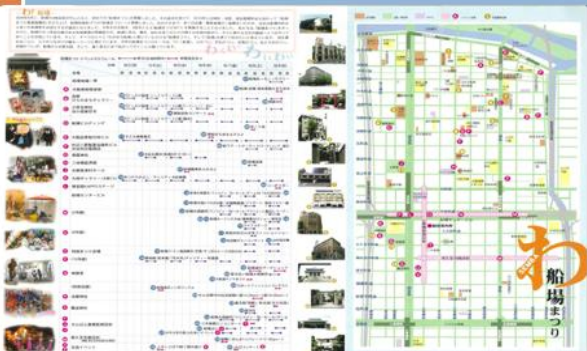
■エリアネ活動の財源確保

梅小路公園内での様々なイベントや店舗等の施設利用等の収益の一部を活動の財源に⇒4月の公募公園内・喫茶開業等

連携プログラムを実施するなどの財源と継続的に地区全体の活性化を議論、検討、活動する組織が必要

- 1) エリアマネジメント活動の財源確保(アイデアレベル)
 - ① 梅小路公園でのイベントや施設利用とその収益の一部を活動の費用に充てる仕組み
 - ・例) すぐゆめ広場整備における、休憩施設(カフェ)の公募要件
 - ② 下京ウエストのHP作成と広告掲載等による収益
 - ③ 「京都・下京WESTのブランド化と商標登録」
 - ⇒ その一部と地域活動費に充当等
- 2) 将来ビジョンと連携プログラム
 - ① 平成25年度～平成28年春・鉄道博物館開園の間【地域情報発信等：下京WEST・連携プログラム・プロジェクト】
 - ⇒ 様々な形で下京ウエストでの連携イベントと情報発信
 - ⇒ 様々な形で投資が起こる可能性のあるエリアであることの発信
 - ② 中長期には遊休地など、地域活性化に貢献する施設整備

エリア同時開催「下京ウエスト祭のイメージ・地域の連携のわ」 参考例：連携イベント「船場まつり：船場の地域文化とアートで遊ぶ」 ～主催：船場まつり推進協議会、船場げんきの会のパンフの転載～



京都・下京WESTのHP作成と地域企業等の広告料等による活動の財源確保等(案)



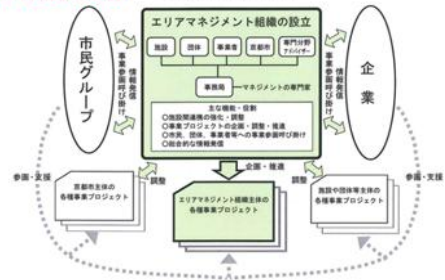
NPO京都・地球みらい機構作成

下京ウエストで想定されるエリマネジメント主な対象とする、下記の活動例

- 1) イベント、キャンペーン(連携イベントや公園でのフリーマーケット・下京市やグリーンマーケット等)
- 2) エリアコンテンツの発信・運営
- 3) エリア連携の強化・調整とブランド力の維持向上
- 4) 遊休地活用なども含めた事業プロジェクト等の立案
- 5) 公共空間の維持管理や地域交通と情報案内システム等
 - ① 駐車場運営、駐輪場運営
 - ② レンタサイクル
- 6) 組織、運営体制 等

検討会を京都・下京WESTのエリマネジメントを推進する協議会へ準備

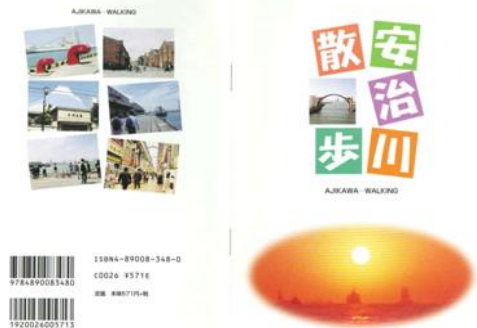
- 官民連携のエリマネジメント組織イメージ例(参考)岡崎地域活性化ビジョン冊子からの転載



キーワード: 情報発信と地域コンテンツ「下京ウエストの魅力発信、テーマと誰に発信するか、リピーターの確保等」

- 1) 様々な魅力とコンテンツやストーリー性
 - ① 食文化、環境、おもてなし・文化・アート等
 - ② 歴史・施設や大規模施設・街区内コモンの魅力等
 - ③ 人の紹介「名人、元気な人、ガイド」
- 2) 上記を様々な手段/マップ・WEB等で発信やPR連携等
 - ① 例えば、NPO京都地球みらい機構のホームページの活用
 - ② 観光トレイル/観光と位置情報等が連動した仮称下京ウエストアプリの検討～まち歩きガイド～下京ウエスト散歩
- 3) 誰に発信するか?
 - ① 梅小路公園の300万人来街者や市場イベントでの集客へ配布～リピーター確保/下京ウエストのファンになってもらう
 - ② 街全体が優しい環境・来街者の来街者を増やす発信とインフラ
 - ③ 都市居住地としての魅力等 地域居住者への発信とcivic pride⇒都心居住とブランド化

街の歴史・食文化・人物・まち案内と共に、まちの目指すべき将来像を発信するまち紹介冊子「下京WEST&体験ツアー」の検討等: 参考例:「安治川散歩」



安治川散歩のコンテンツ「地域の今昔といま: 面白話⇒人物・町衆紹介」等(転載: 2004年安治川まち探し街づくりフォーラム実行委員会)



安治川散歩のコンテンツ「地域の今昔といま: 面白話⇒人物・町衆紹介」等



キーワード: 公園、大学等との「地域・連携」と支援方策(地域イベントや地域周辺の大学における実践フィールド)

- 1) 地域全体での季節感も演出する同時イベント等
 - ① 一定期間地域全体でイベント開催～梅小路公園、市場、松尾大社との集客連携: 地域全体の輪
 - ② 地域の目標とするイベントとテーマ設定
 - 例えば、「食文化、環境、歴史・文化・アートとおもてなし等」
 - ③ 様々な観光客への対応: 留学生による観光ガイド等(NPO活動等)
 - ④ 地域スタンプやバル等
- 2) 体験学習エリアとしてブランド化:
 - ① 様々なエリアで体験学習ができる: 仮称「下京ウエスト・体験ツアー&スクール」とおもてなしガイドの検討
 - ⇒ エリア毎の特色「市場体験学習、夜間水族館等」と全体構築
 - ② 地域コミュニティ育成と子供～学生「体験と学習」「一日店長/小学生」
 - ③ 観光集客: 新たな体験学習の発見等
 - ④ 大学の実践フィールド・PBL等(都市観光とガイド、空き店舗対策等)

街案内ルートの設定と交通・歩行者ネットワークと市内観光トレイル等

- 1) 1～2時間程度の歩ける時間とルート設定等
 - ① 営での市場周辺と花屋町通り等～東西動線強化
 - ② 様々な、下京ウエスト・市が随時開催、点在する街スポット・市の開催等と歩行者ネットワーク⇒市めぐり
- 2) 上記と連動した、サイン設置やレンタサイクル等の補助手段やアプリ開発/市内観光トレイル事業
- 3) 市場の駐車場の週末のアイドリング・タイムを活用した一般駐車場としての開放
 - ⇒ 新たな鉄道博物館開設時には年間集客300万人対応
- 4) 長期的には、新駅設置や丹波口駅改良等と地区内の交通拠点等による、より多くの集客対応できるよう利便性の向上等

【主な意見】

(にぎわいづくり)

- ・ 誰にとってのにぎわいを作ろうとしているのだろうか。やはり、地元、エリアに住んでいる人、もう少し広く捉えると、京都市民にとって、“暮らしやすい地域”を作っていくのが大事だ。
- ・ “誰にとってのにぎわいであり、誰にとっての計画なのか”という点では、まず、そこに住んでらっしゃる方、お勤めに来られている方が自分の地域を誇りに思い、愛着を持つという、「シビック・プライド」がとても大事。それがないと、300万人の人も継続して、長く続いていかない。
- ・ 東本願寺の前の道路をもう少し有効に使えないだろうか。
- ・ エリアの中には寺や公園など、何千人、何万人と人が集まる施設がある。その施設へ行った後、次どこへ行くのか。具体的な仕掛けを我々で作っていけないだろうか。自然観察なり自然をキーワードにして、水族館から西本願寺や東本願寺の池など、点と点をつないでいくというアイデアを出していけたらいいのではないか。
- ・ 梅小路公園では様々なイベントが行われている。明確なテーマがニーズにぴたっと合えば集客していく可能性はあるだろう。
- ・ そこに集まった人をどう地域の“にぎわいづくり”につないでいく、回遊させていくというあたりがポイントになってくる。

(集客・周遊の仕掛け)

- ・ 施設の集客力をいかに地域としてサポートし、にぎわいを維持していくかということがテーマだと思う。
- ・ “梅小路に行ったら何かある”という、プログラムを地域でやるということが大事だろう。
- ・ 地域を紹介するマップについて、冊子で見ると、いろんな方がアプリで参加しながら作りあげて行くものと、2つあった方がいいのではないか。下宿している学生や地域に住んでいる方が情報を付け加えてどんどん作りあげて行くというような仕組みが、マップをつくる時には大事ではないだろうか。単純に地図があるだけなら、既に存在している。そのコンテンツを工夫し、みなさんで共有化したり、こういう面白い暮らし方があるというような魅力を集めて行くという作業が必要。
- ・ どうやって情報発信するかについて具体的に考えて手を動かしていくことができそうな雰囲気があると思う。

(エリア活性化・検討会議の在り方)

- ・ 例えばハードを整備して賑わいを作るとなっても、裏で冷めた人、地域の人には喜んでいないということがあっては良くない。例えば、地産池消として、地元の商店で買い物をする、パートタイマーなどには地域の人を使うなど、地域の人と共に活動することを重要な側面として盛り込んでもらえたらありがたい。
- ・ 観光やそれぞれの事業者の事業収入を上げるということだけで動いているという誤解を生まないよう、われわれの活動の伝え方も大事だ。
- ・ われわれの活動をアピールし、場合によっては、外の協力者、未来の協力者やステークホルダーと言った人たちも巻き込んでいくような動きが、次年度以降に活発になればと思う。

- ・ 地域の人たちと暮らせるような活動につなげていくというのが基本。梅小路は地域のための公園として活用していくという基本哲学のようなことがないと、この検討会議が市民に評価されなくなってしまう。
- ・ “活性化”という言葉がよく使われるが、「地域住民にとって暮らしやすい地域を作っていく、事業者も一緒になって作っていく。そういう視点で、われわれは集まっているんだ」ということを地域にしっかり伝えることも大切。
- ・ 折角、各団体の代表が出てきている会議なので、“具体的にやっていく”ということをプログラムにして、作りあげていくような検討会議に。
- ・ 地域の人と共に活動することが重要。単に仲良しと言うだけでなく、切磋琢磨してニーズに合った施策を作り出していくという競争関係になればとも思う。